

# ESD-J2014 年度 事業計画

<2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日>

## I. 2014 年度（第四期 3 年目）の活動方針

いよいよ ESD の 10 年が今年で最終年を迎える。全国各地で ESD に取り組んできた実践者や研究者、さらには ESD 推進機関のネットワーク組織としての ESD-J も、どのような成果を残すことができるのか、正念場の一年となる。

ESD-J は 2015 年以降も継続的に ESD を推進していく仕組みをつくることは、ESD の 10 年の終了にあたって非常に重要であると考え、昨年中盤より政府や国会議員に向けた働きかけを強化してきた。そして今、地域の ESD 推進を底支えするプラットフォームとしての「ESD 全国センター」構想の展望が見えつつある。このセンターを、省庁連携、マルチステークホルダーによる運営として実現することを最大のミッションとして取り組んでいきたい。

また、全国の ESD 実践者とともに、ESD の 10 年をふりかえり、成果と課題を「地域と市民社会によるジャパンレポート」および「提言」にとりまとめ、今後の ESD 推進の指針としてアピールすることも、上記の動きと同様に力を入れていく。

一方、2015 年以降の ESD-J のあり方に関しては、議案 4 で提示した通り、ネットワークの維持機能にしぼった形で、組織を存続させていく方向で検討を進めていく。そのためには、現在の取り組みをどのように成果として残し、どのような活用につなげていくかを明確に見据えた事業の取り組みが必要になってくる。

このような認識に立ち「ESD コーディネーター育成の事業化」は 2014 年を一つの区切りとして成果を形にする。また「国際ネットワーク推進」については、「ESD におけるアジアの NGO ネットワーク」を設立する。「地域および学校における ESD の推進」「防災教育と ESD をつなぐ取り組み促進」については、全国各地の理事や会員の皆さまとの連携等により、取り組みを進めていく。そして、全国および国際的な ESD の動き、世界会議に向けた情報を、タイムリーに発信していく。

以上、ESD の 10 年を実り多きものとし、2015 年以降の ESD につなげていくべく、会員の皆さまの力をいただきながら、理事・事務局一丸となって取り組んでいきたい。

## II 事業活動

### 1. ESDに関するユネスコ世界会議と 2015年以降に向けた提言活動の展開

---

#### 【成果目標】

- ・全国各地で ESD に取り組んできたさまざまな主体の成果と提言を盛り込んだ「地域と市民社会によるジャパンレポート」と「提言」を作成し、世界会議および関連イベント等を通して、広く社会にアピールすることで、2015年以降の ESD 推進の指針や仕組みに、地域と市民社会からの提案が反映されている。
- ・世界会議およびその関連イベントにおいて、これまで ESD に取り組んできた多様な主体が参加し対話できる場を形成することで、2015年以降も ESD が重要なキーワードとして維持・推進されていく機運が生まれている。
- ・2015年以降の ESD 推進の仕組みとなる、官民協働の「ESD 全国センター（仮称）」への賛同者・機関による準備が始まっている。
- ・2015年以降の ESD-J の組織体制の見通しが立ち、移行に向けた準備が進んでいる。

#### 【事業内容】

- 1) 「地域と市民社会によるジャパンレポート」および「提言」の作成とアピール
  - ・全国各地で ESD に取り組んできた地域に働きかけ、「ESD 地域ミーティング」を連携開催し、各地での 10 年の成果と課題、今後の展開に向けた提言等を形成する。
  - ・地域ミーティング開催者や ESD 推進団体、ESD-J 会員等の参加を得、「地域と市民社会による ESD 提言フォーラム」の開催等を通して、提言を作成する。(6月 21～22日)
  - ・「ESD と企業の集い」を開催し、企業セクターにおける ESD の在り方や、ESD 推進に向けた連携等について検討する。
  - ・秋には「地域と市民社会によるジャパンレポート」および「提言」を完成させ、日・英のダイジェストのパンフレットを発行する。
- 2) 「地球市民村事業」の共催
  - ・ESD 世界会議のプレイベントとして、ESD の 10 年世界の祭典推進フォーラム、文部科学省、環境省、国連大学、GEOC 等との共催による「地球市民村事業」を開催し、各地の ESD 実践の共有と、2015年以降の ESD 推進の仕組みについて議論し、アピールを行う。(8月 20日～22日)
- 3) 「ESD に関するユネスコ世界会議」および「フォローアップ会議」への参画
  - ・11月に開催される世界会議において、1) のアピールを行うべく、公式サイドイベントの開催を目指す。(11月 10日～12日)
  - ・フォローアップ会議が、日本における ESD の新たなスタートの場となるよう、政府に働きかけ、マルチステークホルダーでの対話の場として開催できるよう尽力する。(11月 13日)

#### 4) 提言実現に向けた働きかけ

- ・提言の一部である「2015年以降のESD推進の仕組み」の実現に向け、環境省の懇談会、関係省庁との対話、国会議員への働きかけ、ESD推進組織やNPO、産業界等との連携による働きかけを展開する。

#### 5) 2015年以降のESD-Jの在り方の検討と移行準備

- ・2015年以降、ESD-Jをネットワーク機能にしぼり込んだミニマムな形に移行していくための、定款変更、事業計画、予算などを検討し、2015年度総会に向けた提案を作成する。

## 2. ESDを推進するコーディネーターの社会化推進

### 【成果目標】

- ・多様な分野のコーディネーターがESDの視点やスキルを身につけるESDコーディネーター研修のためのカリキュラムと映像教材が2015年以降も提供可能な状態になっている
- ・多様な分野のコーディネーターが学びあう場、ESDコーディネーターのネットワークが広がっている。

### 【事業内容】

#### 1) ESDコーディネーター研修の事業化準備

- ・これまでカリキュラム開発に携わった講師が集まり、ESDコーディネーター研修カリキュラムのブラッシュアップ、体験プログラムの企画に取り組むとともに、今後の事業展開に向けたビジョンやルールを検討する。

#### 2) 映像教材の制作

- ・「SD! ESD! DESD!」「使える応用スキル」などを中心に、ESDコーディネーター研修用映像教材を10本程度制作する。(1本5分程度)

#### 3) ESDコーディネーター研修のお披露目体験プログラムの実施

- ・開発したカリキュラムのエッセンスが体験できる体験プログラムを企画・実施する。(2015年1月を予定)。これによってコア講師同士の手法や考え方を具体的に共有し、カリキュラムの最終化に活かすとともに、参加者から講師ネットワークを広げる。

#### 4) ESDコーディネーター・ネットワーク会議／評価・交流会議の開催

- ・ネットワーク会議：ESDユネスコ世界会議プレイベント「地球市民村事業」(8月)において、コーディネーターの重要性のアピールと、コーディネーター育成事業の公表を行い、コーディネーターがテーマ・地域を越えてつながる場として開催する。
- ・評価・交流会議：2015年1月の体験プログラム終了後、ESDコーディネーター育成にかかわった主催者、講師、参加者等による本プロジェクトの評価と、関係者のネットワーク形成につながる交流会議を開催する。

#### 5) ESD コーディネータープロジェクトの情報発信

- ・ニュースレター「未来へつなぐ」および「コーディネーター研修紹介パンフレット」の発行
- ・ウェブサイト「未来へつなぐ」の完成
- ・ESD コーディネータープロジェクト最終報告書の発行（web 公開）

### 3. 地域および学校における ESD 推進

---

#### 【成果目標】

- ・多様な主体の連携による ESD に取り組む地域の成果が明文化されている。
- ・全国各地に「学校と地域が連携した ESD」が展開され、学校と地域の連携による ESD 実践事例の「見える化」が進んでいる。

#### 【事業内容】

##### 1) 地域ミーティングの開催協力 [1-1) の一部]

- ・全国各地で ESD に取り組んできた地域に働きかけ、「ESD 地域ミーティング」を連携開催し、各地での 10 年の成果と課題、今後の展開に向けた提言等を形成する。

##### 2) 政府の ESD 施策と連動した、学校と地域の連携による ESD の促進

- ・環境省人材育成事業（47 都道府県）や文部科学省ユネスコスクール・コンソーシアム事業（5 地域）が展開される地域を中心に、ESD-J 理事や会員による学校と地域の連携による ESD の推進を図るとともに、情報共有を進める。また環境省事業の ESD モデルプログラム作成に協力する。

### 4. 国際ネットワーク推進

---

#### 【成果目標】

- ・NGO によるアジア ESD ネットワーク（ANNE）が設立されるとともに、アジア地域の ESD 関連の活動団体に認知が広がっている。
- ・アジアの農村地域の ESD 推進に向けた人材育成のモジュール案が、ANNE メンバーに共有され、その改善に向けた取り組みが進められる。

#### 【事業内容】

##### 1) アジアの農村地域の ESD 推進となる人材育成のモジュール作成

- ・ESD-J による現地訪問調査を踏まえ、インドの GRAM NIDHI プロジェクトをベースにした農村地域の人材育成のモジュール案を CEE と協働して開発する。

##### 2) 「アジア NGO・ESD ネットワーク：ANNE 発足式典・ESD 人材育成モジュールに関する国際ワークショップ」の開催

- ・10 月 8 日岡山にて、ANNE の発足式典を行うとともに、モジュール案について検討す

るための国際ワークショップを開催する。

### 3) ESD に関連する国際的動向の把握と国内への発信

- ・ ESD 最終年に際し、ESD に関するユネスコ世界会議やポスト DESD に関する情報、ポスト 2015 に関する情報等を適時に内外の関係者に向けて発信する。

## 5. 防災教育と ESD をつなぐ取り組み促進

---

### 【成果目標】

- ・ 復興支援や被災地との交流から生まれる学びや、被災経験をふまえた防災教育を ESD の視点からとらえなおす動きと連携し、防災教育・気候変動教育を含めた ESD の「見える化」が進んでいる。

### 【事業内容】

#### 1) 「防災／気候変動と ESD」分科会のコーディネート[1-2)の一部]

- ・ 地球市民村事業の中の「ESD 実践モデル全国会議」において、「防災／気候変動と ESD」に関する分科会をコーディネートし、実践事例の共有とその手法等についての議論を深める。

#### 2) 国連防災会議へのアプローチ

- ・ 仙台広域圏 RCE 等関係機関と連携し、防災教育における ESD の視点の重要性や、有効な防災教育の在り方などをアピールする。

## 6. 普及啓発、情報収集・提供

---

### 【成果目標】

- ・ 2015 年以降の ESD 推進の仕組みづくりに向けた ESD-J の取り組みや、各地の ESD 実践の広がりをきめ細かく発信していくことで、ESD をともに進める仲間が大きく広がっている。
- ・ ESD 推進機関との連携により、ESD 関連情報がより入手しやすい仕組みが生まれている。
- ・ 2003 年からの ESD-J の取り組みに関するドキュメントが整理され、「ESD-J12 年レポート」が発行できる準備が整っている。

### 【事業内容】

#### 1) ESD および ESD の 10 年に関するさまざまな動きの情報発信

- ・ 理事や会員との連携を強化し、ウェブサイト及びメーリングリストにおけるタイムリーな情報発信に努める。また、メルマガおよびフェイスブック等との連動で、会員ネットワーク外への情報発信力を高める。
- ・ 紙媒体である「ESD レポート」は、年 2 回の発行とする。

## 2) ESD 普及のための研修・講師派遣

- ・ ESD に関連する各種講演や研修等の依頼に応じて、ネットワークから適切な講師を派遣する。また、研修企画の協力も行う。

## 3) ESD 関連イベントでの ESD 広報

- ・ 環境省の ESD 広報事業に協力し、環境イベントや ESD 関連イベントの場で、一般市民や親子を対象とした ESD プログラムを実施する。

## 4) ESD-J12 年レポートの準備

- ・ ESD の 10 年を総括するために、ESD-J の 2003 年からの取り組みを整理するとともに、12 年レポートを発行するファンドレイズを含めた準備を進める。

# III. 実施体制について

## 1. 役員等

代表理事	阿部治、重政子
副代表理事	池田満之
理事	池田誠、大島順子、小金澤孝昭、新海洋子、柴尾智子（内諾）、 壽賀一仁、杵本育生、鈴木克徳、関正雄、長岡素彦、名執芳博、 竹内よし子、三隅佳子、村上千里、森高一、森良、吉澤卓
監事	浅見哲、吉岡睦子
顧問	池田香代子、岡島成行、廣野良吉、CWニコル(確認中)

### \* 役割

2015 年以降に向けた提言活動	主な担当理事：阿部治、重政子、+ 全理事	
ESD コーディネーターの社会化	主な担当理事：壽賀一仁、森良、森高一	
地域および学校における ESD 推進	主な担当理事：池田満之、森良	
国際ネットワーク推進	主な担当理事：鈴木克徳、名執芳博	
防災教育と ESD をつなぐ	主な担当理事：小金澤孝昭、長岡素彦	
普及啓発・情報収集・提供	主な担当理事：吉澤卓、長岡素彦、森高一	
地域担当理事：	【北海道】池田誠	【東北】小金澤孝昭
	【関東】森良	【北陸】鈴木克徳
	【東海】新海洋子	【近畿】杵本育生
	【中国】池田満之	【四国】竹内よし子
	【九州】三隅佳子	【沖縄】大島順子
組織運営理事	阿部治、重政子、池田満之、鈴木克徳、村上千里	

## 2. 事務局

事務局長（常勤）	・・・村上千里
スタッフ（非常勤）	・・・中川哲雄、宮崎裕子、飯島邦子、笹川貴吏子、伊藤通子
契約スタッフ	・・・野口扶美子、後藤尚味、森高一、大塚明